

の活力に問題があったものと考えられた。試験区2ではヒレナシジャコ仔貝に投与したヒメジャコ共生藻が24個体中3個体（共生率12.5%）共生成立した。同様にヒレジャコ共生藻も24個体中1個体（共生率4.2%）共生成立した。対照区であるヒレナシジャコ共生藻は24個体中5個体（共生率20.8%）共生成立した。対照区と比較すると低い共生率であった。試験区3ではハナヤサイサンゴ共生藻、コモンサンゴ共生藻両種共にヒメジャコ仔貝との共生は確認されなかった。

表19 別種シャコガイ初期仔貝との共生試験2（個別飼育）の結果

試験区	シャコガイ仔貝種類	共生藻種類	飼育水温(°C)	孵化幼生個体数	共生成立個体数	共生率(%)	共生成立日令	試験終了日令
1	ヒレジャコ	ヒメジャコ	27.7	24	1	4.2	29	44
		ヒレジャコ	30.7	24	0	0	—	
2	ヒレナシジャコ	ヒメジャコ	28.2 ~ 30.8	24	3	12.5	15~20	26
		ヒレジャコ		24	1	4.2	20	
		ヒレナシジャコ		24	5	20.8	15~20	
3	ヒメジャコ	ハナヤサイサンゴ	29.4 ~ 30.6	24	0	0	—	26
		コモンサンゴ		24	0	0	—	
		ヒメジャコ		24	3	12.5	15~22	

#### IV. 考 察

##### 1. 初代培養条件の検討

初代培養試験1の結果から培養水温20°C及び25°Cが増殖に適していないことが明らかになり、30°Cで最も安定的に増殖することが明らかになった(図1)。35°Cも30°Cと比較すると増殖は不安定であった。これは種苗生産時も含めたシャコガイの生育適正温度帯とほぼ等しい。

光強度に関しては初代培養試験1の結果では水温ほど明確な差は生じなかったが、40